

「誰にでもやさしいまちふくしま」 実現にむけて



共生社会への姿勢の明確化、取組展開

東京2020を機に、その理念に賛同し、共生社会への姿勢を明確化し、急ピッチで取組展開

- ・地域共生
- ・多文化共生

- ・市長就任(H29.12)後、最初の当初予算でトイレ洋式化の予算計上
- ・H30.7 バリアフリー推進パッケージ
⇒ 総合的な共生社会への取組開始
- ・R3.4 新総合計画 5つの理念の一つに「多様性の尊重」
～ 共生社会の理念上の根拠、東京2020のレガシー化

重要な視点【5点】

目指すべき将来のまちの姿の
実現に向けて取り組むまちづくり
全体を網羅する重要な視点

1.福島らしさを
生かした
新ステージの形成

2.持続可能性の
実現

3.多様性の尊重

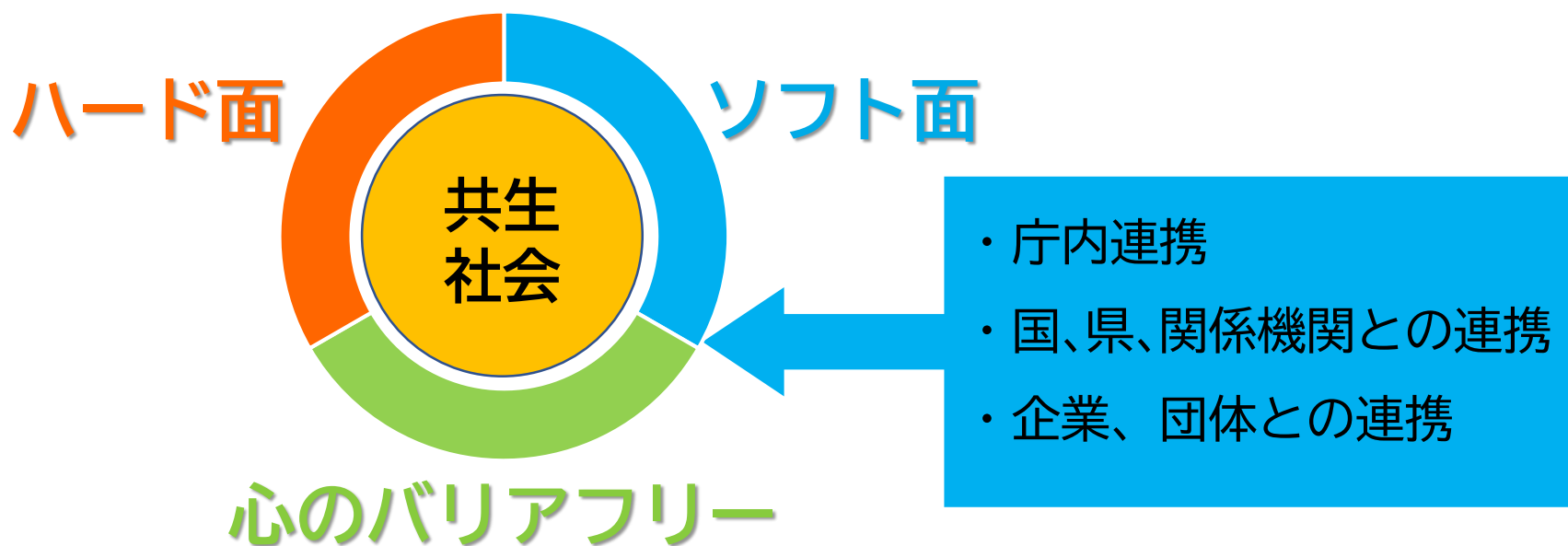
4.県都としての
責務

5.ポストコロナ
時代を見据えた
社会づくり

バリアフリー推進に向けた体制づくり

1. バリアフリー推進パッケージ (R1.7)

ハード・ソフト・心のバリアフリーを一体的に推進



2. 共生社会ホストタウン (R1.12)

先導的共生社会ホストタウン (R2.3)

3. バリアフリー推進パートナー発足（R1.9）

本市が進めるバリアフリーの取り組みに賛同いただいた企業、団体にパートナー登録いただき、官民一体となった取り組みを進める。

R5.8現在 298事業所・団体登録



バリアフリーの制度的な整備、普及

1. 手話言語条例（H31.4施行）
2. 障がいのある人もない人も共にいきいきと暮らせる
福島市づくり条例（R2.4施行）
3. ヘルプマーク・ヘルプカードの普及
 - ・福島市独自デザインのヘルプカード配布
 - ・市公用車やタクシーによる周知



まちのバリアフリー化 ①

1. バリアフリーマスタープラン 策定 (R3.6)

基本理念

『誰にでもやさしいまち ふくしま』

●まち歩き点検／ワークショップ

- 障がい者、関係機関等が協働で点検、解決策を検討
- 移動等円滑化地区を6地区設定



<福島市>



まちのバリアフリー化 ②

2. バリアフリー基本構想 策定(R5.3)

中心市街地・飯坂温泉地区（温泉地では全国的に稀）

- ☑中心市街地 ハード整備のみならず、誰にでもわかりやすい統一した案内誘導が必要。オリパラのレガシーとして、ユニバーサルデザインの視点からまちの情報発信を。
- ☑飯坂温泉地区 「バリア」があることを伝えることも大切な情報発信。
ハード整備と併せ、おもてなし(ソフト)によるバリア解消を推進



【ワーキンググループ】



【まち歩き点検】



【飯坂温泉おもてなし勉強会】

まちのバリアフリー化 ③

3. 公共サインガイドラインの作成 (R5年度)

▲ルール案内のデザインが不統一

▲サインの表示効果が低い等

公共サインガイドライン整備コンセプト

① 日常をサポートする

#暮らしやすいまちのサイン

- 必要な情報を直観的に
- 市民が暮らしやすい情報

② 街の魅力を伝える

#情報発信と情報“発見”

- 本市を訪れた方へ情報発信
- 地域住民に発見となる情報

③ 非常時を支える

#まちの安心サイン

- 防災やバリアフリー情報
- 非常時の安心材料

<公共サインの例>



公共サイン…
不特定多数の方が利用する
公共性の高い標識・地図・
案内誘導板など

まちのバリアフリー化 ④

4. 公共施設のバリアフリー化

①バリアフリー化

集中的事業推進：H30.12補正

②公共施設のトイレ洋式化、多目的トイレ設置

東京2020を契機に、高齢者等の利便性確保と訪日外国人旅行者の受け入れ環境を整備。

トイレの新設、修繕に合わせて多目的トイレの設置も推進。

トイレ洋式化：H29 40.6% ⇒ R4 83.4%

③学校トイレの洋式化

H29 22.1% ⇒ R4 81.8% (全国68%)



まちのバリアフリー化 ⑤

5. 事例《パセオ通り》

車止めが路面と同系色。低い

車道のマウンド



歩道と車道の境に段差

車止めの変更

マウンド解消



段差なし

点字ブロックがない



植栽マスが歩行者の妨げ

点字ブロック設置



植栽マス撤去

まちのバリアフリー化 ⑥

5. 事例《南福島駅、飯坂線》

JR南福島駅エレベーター、スロープ設置



飯坂線岩代清水駅
スロープ設置



障がい当事者との連携によるバリアフリー

1. 障がい者の社会参加と交流の場の創出

『いきいき！ふくしまーケット』



- ・ 障がい者による手作りの商品を販売
- ・ 延べ449施設、延べ287日開催（R4）
- ・ オンライン店舗の開設（R2～R4）
- ・ 地元スーパーでの常設
- ・ 製品向上に向けた支援

2. 障がいのある方に配慮した福祉避難所を整備

- ・ 障がいのある方が通いなれた通所事業所を、避難場所に確保
- ・ 17法人20事業所と協定を締結

心のバリアフリーの普及促進 ①

1. 心のバリアフリーキャッチフレーズ設定

R4年に市内全ての小学4年生から中学生を対象に募集し、市独自のキャッチフレーズを設定

◇◆◇ 福島市心のバリアフリーキャッチフレーズ ◇◆◇
「共生、学びは無限大」

2. 心のバリアフリー推進隊によるPR活動

- ・市内の大学へ通う学生によるPR隊を結成。
- ・各種イベント等での広報活動を実施。



心のバリアフリーの普及促進 ②

3. 啓発冊子「心のバリアフリーってなあに？」の配布

- ・ 市内全ての小学4年生へ配布し授業の中で利用
- ・ 心のバリアフリー出前講座で活用
- ・ QRコードから動画で視聴可能
- ・ 新型コロナによる差別問題も追補



4. 心のバリアフリー出前講座の開催



バリアフREETZア-

1. ジャパントラベルアワード2022 グランプリ受賞

- ・観光から多様性がありインクルーシブな社会をつくる取り組みが評価
- ・「アクセシビリティ部門賞」「メディア賞」「グランプリ」のトリプル受賞
- ・市民だけでなく、福島市を訪れる人にとっても選ばれる街に



スポーツを通じたバリアフリー

1. パラスポーツ振興をスポーツのまちづくりの柱に

2. パラスポーツの市民への普及

- パラスポーツ用具を学習センターやスポーツ施設に配置
- イベントや街なかでボッチャ等の体験
- ボッチャ市長杯の創設（R4）

3. パラ大会・合宿の誘致

- パラスポーツ団体合宿の積極的受け入れ
- 日本ボッチャ協会との連携協定（本市での大会開催）

4. 障がい者スポーツ団体の施設優先予約

- 障がい者がスポーツに取り組む機会の創出・拡充

5. パラアスリート派遣事業

- 市内学校でのパラアスリートによる競技体験・交流



多文化共生のまちづくり

1. 多文化共生のまち福島推進指針策定

- R2. 8策定

2. 多文化共生センター「Yuiverse」整備

- R5. 9オープン
- 外国人の方々がいつでも立ち寄れるリビングルーム
- 国籍や文化の違いを尊重して交流できる施設



3. 外国人生活相談窓口

- 市役所内にベトナム国籍の専門員を配置
- 戸籍、税金関係など多言語で相談可能



4. 緊急時の情報提供

- メールで災害等の緊急情報を多言語で提供
- 福島市国際交流協会でもSNSで情報発信

5. 結・ゆい・フェスタ開催

